

IPO銘柄

東京ボード工業 (7815・東証2部)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
7815	100株	公募: 10.00万株 売出: 36.00万株 (OA6.00万株)	1,980円~2,180円 (10.8倍)	東海東京証券

■ 日程



住宅用木材のパーティクルボードなどを扱う

■ 事業内容

木材環境ソリューション事業、ファシリティ事業を展開する。1946年に設立された千住ベニヤ工業と、翌年島根県で設立された山陰ベニヤが前身。市場環境の変化に対応して合板から、木材チップを接着剤と混合して熱圧成形した木質ボード、パーティクルボードへ事業転換を行った。主力の木材ソリューション事業ではパーティクルボード、合板の製造・販売を行っており、主要製品はマンションの二重床下地向けパーティクルボード。ファシリティ事業では保有不動産の有効利用として不動産賃貸のほか、ショッピングタウン「カリブ梅島」の管理・運営を手掛ける。15年3月期第2四半期累計(14年4~9月)の売上高構成比は、木材環境ソリューション事業が92.6%、ファシリティ事業が7.4%。

■ 特徴

木材環境ソリューション事業では、同社自身が産業廃棄物および一般廃棄物処理業の許可を取得し、同社工場に持ち込まれる木質廃棄物を木材チップに加工。それを原材料としてパーティクルボードを製造している。ゼネコンなどと廃棄物処理の契約を交わしているため、原材料は購入するのではなく処理費用を受け取って調達し、さらに加工した製品を販売するという仕組みを作り上げている。

アナリストコメント

■ 定量分析

15年3月期の連結経常利益は前期比11.2%減の7億2,100万円を予想する。足元で消費増税前の駆け込み需要の反動から住宅着工戸数が減少。建設労働者不足から工期の遅れなども発生している。成熟市場であるため、反動減解消後も高成長は期待しづらい環境にある。

■ 定性分析

住宅資材が主力で今期減益見込み、また初値買いの集まりにくい東証2部上場案件であることからネガティブな印象がある。土地持ち企業であることは注目だが、カヤックなど人気案件と同日上場であることも加味すると、大量の買い注文を集める展開は期待しづらい状況にある。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約11.3億円。ベンチャーキャピタル保有株を加味しても需給妙味の大きな規模と言える。ただ、年末IPOの中でも終盤戦で、かつ3社同日上場のため資金が分散し、初値買いが入りづらい環境にあることは考慮しておきたい。
(小泉健太)

■ 類似企業

東京ボード工業(7815・東証2部)	予想PER10.8倍 (仮条件上限)
永大産業(7822・東証1部)	予想PER7.4倍
ノダ(7879・東証2部)	予想PER5.1倍

■ 引受証券

東海東京証券、みずほ証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、SMBCフレンド証券、いちよし証券、岩井コスモ証券、エース証券、岡三証券、極東証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
13年3月期(実績)	5,956	—	822	—	673	—	291.5	17.0
14年3月期(実績)	5,905	▲0.9	811	▲1.3	568	▲15.6	240.7	12.0
15年3月期(会社予想)	6,398	8.3	721	▲11.2	497	▲12.5	202.4	—

※ 13年3月期から連結決算。

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
13年3月期	4,420,000	10,753	3,324	221	1,337.7	28.7	24.4
14年3月期	3,660,369	11,068	4,124	221	1,555.9	34.6	16.4

大株主上位 (上場前)

氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1 井上 弘之	744,543	20.34
2 T・B・H	535,535	14.63
3 セイホク	270,000	7.38
4 鈴木 吉助	98,250	2.68
5 東京ボード工業従業員持株会	79,250	2.17
6 JKホールディングス	78,070	2.13
7 みずほ銀行	50,000	1.37
7 三菱東京UFJ銀行	50,000	1.37
7 太田 稔	50,000	1.37

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	井上 弘之
取締役会長	鈴木 吉助
取締役 製造担当	石毛 正広
取締役 経営管理部長	尾股 拓彦
取締役 営業担当	川村 秀義
取締役	井上 守
監査役(常勤)	石毛 哲男
監査役	小林 三郎
監査役	小堀 優

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO（※1）レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング（※2）が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。